ユーザー企業に必要なIT人材とは

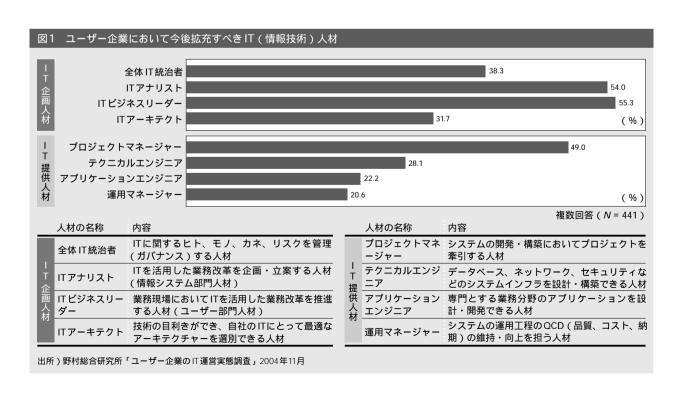
宮嶋勇太郎

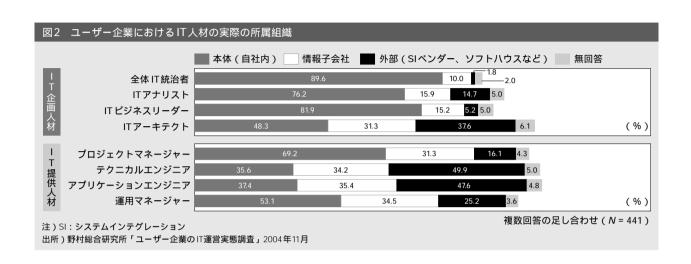
情報システムのユーザー企業では、自社の情報システムの活用を担うIT(情報技術)人材を、社内に確保すべき人材と、SI(システムインテグレーション)ベンダーをはじめとする外部事業者から調達してもかまわない人材とに区別しつつある。従来ユーザー企業が社内に確保していた、情報システムを設計・開発・運用するために必要な人材の外部調達が進んでいる。一方、情報システムを活用し自社のビジネスの発展・向上に貢献できる人材を、どのように育成し、かつ継続的に確保するかが、ユーザー企業にとってのIT人材マネジメントの大きな問題となっている。

必要とされるIT企画人材

ユーザー企業に必要なIT人材 というと、SIベンダーに必要な IT人材と基本的に違いはないと 思われるかもしれない。すなわ ち、アプリケーションシステムを 設計・開発する人材や、システムインフラを設計・構築する人材、またそれらのプロジェクトを管理するプロジェクトマネジメント人材など、ITの設計・開発・運用に必要な人材が真っ先に頭に浮かぶ。実際、ユーザー企業でも、かつてはこうした人材をIT部門に配属するのが一般的だった。

しかし今日、情報システムを整備すること自体が重要視されてきた時代(自動化、機械化の時代)から、情報システムを活用して自社のビジネスを発展・向上させることが求められる時代(業務革新の手段となる情報システムが期





待される時代)へと変わってきている。そのため、ITを設計・開発・運用するために必要な人材(以下、IT提供人材)だけでなく、ITを活用してビジネスを変革する人材(以下、IT企画人材)の必要性が高まっている。

2 つの IT 企画人材と さまざまな IT 提供人材

2004年11月にNRIが行った「ユーザー企業のIT運営実態調査」の結果を見ると、今後拡充が必要なIT人材として、半数以上の企業が2つのIT企画人材をあげている。それは、ITを活用した業務改革を企画・立案する企業内IT部門のITアナリストと、実際にITを活用して業務改革を牽引する企業内ユーザー部門のITビジネスリーダーである(図1)。

また、アプリケーションシステムを設計・開発する人材(アプリケーションエンジニア)と、データベース、ネットワーク、セキュリティなどシステムインフラを設計・構築する人材(テクニカルエンジニア)については、外部調達でよいと答えた企業が半数近くに上っている(図2)

これらから、ユーザー企業が社 内に確保すべき人材と、SIベン ダーをはじめとした外部事業者か ら調達してもかまわないと考える 人材が、区別されつつある傾向を 読み取ることができる。すら ち、IT企画人材は外部から調達 できないものとしてのITに精通した IT提供人材は外部から調達する、 という考えが広まりつつあるよう である。 情報システムの企画、設計、開発・構築、運用という一連のプロセスは、すべてIT人材によって支えられている。情報システム全体のマネジメントを検討するえで、IT人材のマネジメントはないといるではないではないでは、自社グループの異ないでは、自社グループの置かれている環境を前提に、独自のIT人材マネジメントを検討する必要があろう。

『ITソリューションフロンティア』 2006年 1 月号より転載

.....

宮嶋勇太郎(みやじまゆうたろう) 産業ITマネジメントコンサルティング 部副主任システムコンサルタント